会報 つきぼし
2012.7.20 vol.83
発行：月星会　発行人/宍倉龍子　編集人/大浦義信
〒262-0023 千葉市花見川区検見川町1-616 マリーンヒルズ103
TEL.043-273-9811　FAX.043-273-9812
http://tsukiboshi.net/

平成24年6月2日㈯　平成24年度定時総会開催　ホテルグリーンタワー幕張

INDEX

平成 24 年度総会……1～2
臼井先生寄稿……2
会員企業訪問 ㈱アイエスエイ …3
例会報告……4
会員異動 / スケジュール ……4

初の女性会長誕生！

── 宍倉龍子新会長「人の輪、心の輪」を強調 ──

梅雨入り間近の6月2日（土）、月星会平成２４年度定時総会は、ホテルグリーンタワー幕張にて午後６時より開催されました。

阿佐一郎さんの司会により挨拶に立った加藤会長は、「役員任期が１年となり、短い期間だったがその中で創立２０周年記念式典を盛大に開催することが出来た。また任期途中で病気になり自分としては消化不良となってしまったが、会活動は順調に進み改めて会員の力を感じた１年だった。」との挨拶の後、金田敏彦議長、大浦義信議事録署名人を選出し早速議事に入りました。

第１号議案の活動報告から第６号議案の役員及び委員会構成案まで、担当役員より説明・提案がされ、いずれの議案も会員の拍手により承認されました。

臼井先生講演「日本はどこへ行くのか？」

引き続き同会場で臼井先生の特別講演「日本はどこへ行くのか？」をお聞きしました。民主党政権発足後、３年間の問題点の指摘、消費税・社会保障改革、対中国問題等を短い時間の中で熱く語りました。

恒例となった臼井先生を囲んでの記念撮影を挟み、眺望の素晴しい２０階のスカイバンケットルームへ会場を移し、大浦さんの司会で役員認命式・懇親会が始まりました。月星会初の女性会長に就任した宍倉龍子さんから「今年度は人の輪、心の輪を大切に会運営を行ないたい。」との挨拶がされました。

懇親会は阿佐直前会長の乾杯の発声で始まり、各々のテーブルでは和やかに杯を交わし、９時過ぎに岩田相談役の中締めでお開きとなりました。　（事務局　川名利夫）

平成24年度月星会総会３部懇親会

毎年恒例の記念撮影の後は、3部の役員任命式と懇親会が行われました。20階・スカイバンケットルームから幕張の夜景を眺めながらの開催です。

司会は大浦義信広報委員長が務めました。

初めに加藤会長の挨拶がありました。肩の荷が降りたのかいつも以上にリラックスした和やかなご挨拶でしめくくりました。

次に新役員任命式に移り、臼井先生から宍倉新会長へ認証状が授与され、その後宍倉新会長から各役員へと任命証が授与されました。

続いて臼井先生のご挨拶を頂き、阿佐相談役の乾杯で懇親会が始まりました。

懇親会の途中で4名の新入会員の入会式が行われました。防災技術センター株式会社の今関左千夫さん、伴英二税理士事務所の伴 英二さん、株式会社 山田工務所の山田敦史さん、再入会の竹口満代さんの4名です。

懇親会に入るといつもの月星会らしくあちらこちらで笑い声が絶えない楽しい時間となりました。

最後に岩田相談役の中締めにて終了しました。

（木下英之）

特別寄稿

次期総選挙の核心は何か？

前衆議院議員　臼井日出男

●次期総選挙投票の核心は？

中央政界が騒々しくなってきた。とうとう小沢グループが民主党から離党したからだ。マスコミの焦点が、マニフェストに反して消費税増税法案を推進する野田民主党に反対する小沢グループの対応がが正しいのか、それとも単なる民主党の内紛なのかといった処に焦点が当たっている。しかし有権者にお願いしたいのは、こうしたごたごたに迷わされて来るべき衆議院総選挙における“投票の核心”を見失ってはならないということだ。それば来るべき総選挙で有権者が投票行動の核心は「民主党があのマニフェストで麗々しく公約した政策実行をしなかった」事実に対する厳しい責任を追求であるべきであるということだ。勿論離党したからと言って小沢グループもその責任を免れることは出来ない。

●“綱領”を持てない政党・民主党

最も基本的な民主党の欠陥は、綱領をもたない政党、否、綱領を持てない政党であるということだ。

政党の綱領とは、「その政党が如何なる理念・政策で私たちの大切な日本の国創りを行っていくのか」を、国民に明らかにするものだ。それこそその政党の有権者に対する公約とも言えるものだ。民主党は所属する議員の幅が保守から社会党左派とまで広すぎて統一された理念・政策を綱領として持つことが出来ない。有権者はこのことをしっかりと見極めなければならない。

●日本列島は日本人のためのもの！

それでは綱領を持たない民主党が、如何なる日本創りをしようとしているか判らないかと言うと、必ずしもそうではない。それは鳩山元総理の「日本列島は日本人のためだけのものではない」と言う発言に表れている。言葉は綺麗だが私は賛成しない、やはり「日本列島は日本人のためのもの!」だと信じている。そしてその鳩山元総理の発言の延長上にある政策が、絶えず見え隠れしている「永住外国人に対する地方参政権の付与法案」である。地方参政権に限定するので良いではないかと言う者もいるが、地方では限界集落も多い日本では、永住外国人への投票権付与が日本の骨格に拘わる大きな影響力を持つ可能性がある。次期総選挙では、前回の総選挙の総括こそ必要であることを忘れないで欲しい。

＜会員企業訪問＞

第10回　㈱アイエスエイ

機を見るに敏。気がつけば業界大手に

毎月の「社長レポート」で全社員と経営見通しを共有

「第三期黄金時代」

〈条件が整い、第三期黄金時代の幕開けです。一期、二期と違うのは、業界の成熟期で会社そのものの実力で発展することができるところです。中小企業のメリットを最大限に生かします。〉

これは㈱アイエスエイ（略称ＩＳＡ）の石井康弘社長が毎月、社員に発信する「社長レポート」の一文である。

ＩＳＡは、千葉県を中心に東京、埼玉、茨城でパソコンスクールなどＩＴ教育・ＩＴ関連サービスの事業を展開する会社。事業拠点が広範囲に及び、日常的なコミュニケーションが困難な面もあって、社長の“肉声”の代わりに毎月全社員宛にメッセージを送っている。

冒頭の一文は最近のものからの抜粋であるが、同社の置かれた今日の状況を最大限、ポジティブに表現しているところに、石井社長の鋭い経営センスと底力が窺える。

「第三期黄金時代の幕開け」。この言葉は、石井社長にしか使えないであろう。なぜなら、業界自体は真逆の状況、つまりＩＴ教育、とりわけパソコンスクールの市場は縮小の一途を辿っているからだ。

スクールに限っていえば、ＩＳＡとて例外ではない。実際、最盛期には45校あったスクールが現在では16校にまで激減しているのである。

我々の身近な状況を見れば、スクールの需要減退は頷けよう。いまや家庭にパソコンが複数台あるのは当たり前、オフィスにおいては常に最新機種が一人ひとりに貸与され、ネットワークでつながっている。パソコンが使えないとなると、採用すらしてもらえないだろう。

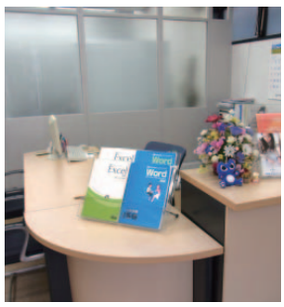
パソコンはすでに小学校にも導入され、高校、大学と進むうちに筆記用具同様に使いこなせるようになる。

もちろん、それでも「今時パソコンを使えないようでは」と、遅まきながらスクールに通ったり、「もっと高度な使い方を」とスクールの上級コースを受講したりする人もいるので、需要そのものがなくなることはない。だからこそ、ＩＳＡにはまだ16校のスクールがあり、それぞれの拠点で活発に業務を遂行しているのである。

石井社長は、「この業界は、終わった業界」とまで言いきる。現在も同社の主力事業であることは変わりないところで、この発言。そして石井社長は、この状況を「第三期黄金時代」と社員たちに対して力強く宣言しているのだ。

冷静な読みとポジティブ思考

ＩＳＡがパソコンスクールの業界に踏み出したのは、昭和61年（当時は「ワープロスクール」）である。それまで何をしていたかというと、損害保険の代理店。パソコンスクールとはまったく無縁の仕事をしていた。



では、石井社長自身が当時からワープロやパソコンなどＩＴに関心があったり、マニアだったりしていたのかと思えば、それもないと言う。

始めたきっかけは、奥様の「ワープロスクールやったらどう？」の一言。当時は、ワープロ専用機がまだ高価で日常的に使っている人も少なかったが、パソコンを含めて急速に普及するであろうことは誰でも予測できた。

実際、昭和61年ぐらいには価格も下がり、オフィスのみならず家庭でも購入する人が広がり始めていた。ところが、購入しても周りに使い方がわかる人はいない。キーボードに慣れている人が近くにいない。ゆえにスムーズに使いこなせないという状況があった。

石井社長の奥様は、学生時代から英文タイプを使いこなしていたのに加え、損保代理店の業務ですでにパソコンを活用していた。

だが、これだけの背景でまだ市場さえできていないうえに、現業との関連性が何もなくノウハウも持ち得ていないワープロスクールを開く人はあまりいないだろう。なにしろ、損保代理店業務と違って、スクールは相応の設備投資がかかる事業である。

石井社長は、「たまたま1000万円の資金があって…」とサラリと話す。その裏にはニーズの急速な高まりへの確信があったのだろう。実際、あっという間に県内から茨城、埼玉と開校を拡大し、平成11年には東京にも進出した。

だがこの頃から、業界の勢いは止まった。石井社長は、だからといってネガティブにはならない。それも読みのうちで、スクール以外のＩＴ教育やＩＴ関連サービスなど事業の多角化に踏み出しながら、スクールの中身も時流に合わせて高度化、専門化を進めていった。

石井社長は、常に冷静に現状と先行きを読み、臨機応変にポジティブな舵取りをしてきた。「機を見るに敏」という言葉が実にぴったりする。

スクールの市場縮小で会社のスリム化は余儀なくされているが、社員たちには「社長レポート」などでその流れを包み隠さず伝えてきた。

競争相手の相次ぐ撤退もあり、ＩＳＡはいつの間にか「大手５社の一角」（石井社長）に位置している。社員たちは、石井社長の舵取りを信頼し、事業縮小の中でもモチベーションを下げず、次代のＩＳＡに意欲を見せる。自社にとっての「第三期黄金時代」を決して夢物語とは思っていない。「業界の勢いではなく、自分たちの力で創るのだ」と。（取材・文／奥平。次回は㈱大澤製麺を予定しています）。

定例朝食会報告

毎月第2土曜日　午前7時開会　　ホテルグリーン・タワー幕張

本年度、例会委員長を仰せつかりました林です。

毎月充実した、楽しい例会を目指し取り組んで参りますので会員各位のご指導、ご協力を御願い致します。

基本的に本年度は夕食例会となりまして、６月の初例会はホテルグリーンタワー幕張で開催しましたが、参加者２１名と低調でした。卓話は桜木観光の高柳啓一会員に「交通事故は何故減らないのか？」というタイトルで関越自動車道でのバス事故の話題から交通事故の実態をお話し頂きました。

７月例会は場所を鮨割烹みどりに移しての開催でしたが、曜日を前月の水曜日から金曜日に変更したところ３１名の参加がありました。卓話は門山宏哲会員に消費税増税法案を巡る「民自公３党合意」の真相と今後の政局についてお話し頂きました。時季の「鰻御膳」を食べた後、うすい先生の国会の解散の攻防のお話や議会報告、美術鑑賞の壷もあり、予定時刻を３０分程超過しましたが大変盛り上がった例会となりました。　　（例会委員長　林　　威樹）

研修親睦旅行

研修親睦旅行を下記のように企画しています。
お誘い合わせてご参加ください。

●日程　9月8日㈯～9日㈰　1泊2日
●行先　福島方面
●出発　a.m. 8：00出発　千葉NTT前 集合
●会費　会 員 20,000円　ビジター 25,000円

経営研修会

貸切列車内で学ぶ地場産業を活性化させるための経営戦略

■日　　時　平成24年10月13日(土)
■講　　師　いすみ鉄道　鳥塚社長
■募集人数　40名先着

8・9・10月のスケジュール

8/ 1㈬	役　員　会	18:30開会　プラザ菜の花
8/10㈮	定例夕食会	19:00開会　参加費 3,000円 会場：鮨割烹みどり
8/26㈰	納涼例会プロ野球ナイター観戦 千葉ロッテマリーンズ VS 福岡ソフトバンクホークス 参加費3,500円　17:00開始　QVCマリンフィールド	
9/ 5㈬	役　員　会	18:30開会　プラザ菜の花
9/8㈯～9㈰	研修親睦旅行　「福島県会津若松市」	
9/14㈮	定例夕食会	19:00開会　参加費 3,000円 会場：鮨割烹みどり
10/13㈯	経営研修会 いすみ鉄道車内にて同社社長鳥塚亮氏の講演	

会員異動　再入会

竹口満代氏　〒260-0832　中央区寒川2-122-2
TEL.043-261-2311　FAX.043-261-2311

編集後記

本号から、新広報委員長の大浦義信さんに会報の編集責任をバトンタッチしました。私・産方は副会長を仰せつかった次第ですが、副会長の重責を担えるのかどうか、いまだに戸惑いの渦中にあります。ともあれ、若輩ながら宍倉新会長を支えつつ精一杯、役割を果たしていきたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。なお、会報の編集については、副会長およびアドバイザーという立場から、できる範囲で関わらせていただこうと考えています。今後もご寄稿や取材等につき、大浦新委員長共々こちらも会員の皆様に何卒よろしくお願い申し上げます。　（産方）

大浦でございます。今年度から広報委員長として会報の編集等に微力を尽くさせていただくことになりました。会報の編集等につきましては、内藤・奥平両副委員長が引き続き主体的に関与いただくことになり、大船に乗った気持ちで委員長の役目を果たさせていただきます。本年度1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。　（大浦）